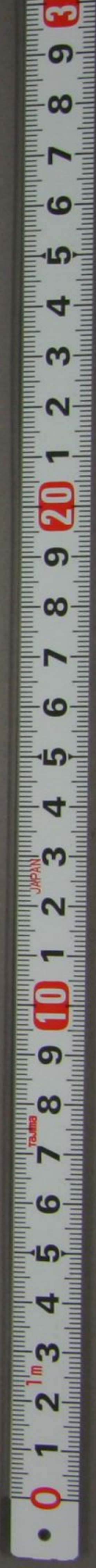


414
A 373



別録琉球藩改革一件見込之儀頗レ輕
 拳：似タリト云凡尚将来ヲ熟圖候一
 ハ必ラス此機失ス可カラスト存候尤
 事秘決、涉リ衆耳：觸レ候ヲハ甚々
 宜カラカレ儀、付竊：拝呈仕候当令
 征著事務御詮議中トモ存候ハ猶御
 参考：相備ヘタ々不願菲言此段建白

大正十一年四月
 隈侯爵邸寄贈



仕候也

七年三月

外務卿公閣下

森山茂

琉球藩改革之議

大抵琉球ノ事、往歲魔島藩ノ羈軛ニ繫
リ、一昨年、朝廷直管以來、其優待ノ辱
キヲ認載シ、藩王以テ其任ヲ盡シ、庶臣
以テ其職ヲ述フルト、虫氏、談藩ノ人情
狐疑遲鈍、徒ニ舊章ヲ率由シ、敢テ時世
ノ變遷ニ移ラス、故ニ本邦日新ノ風致
ヲ闡カヒ、其百般ノ沿革、渾テ意料ノ外
ニ在ルヲ以テ、餘勢ノ談藩ニ波及セシ

トツ憶ヒ心竊カ、履霜ノ懼レヲ懷キ、
口陰カニ父皇母清ヲ鳴ラシ、以テ其初
例ノ拳ヲ相防ス、其情惡ムヘキ、似テ
最憐ムヘシ、夫談藩ノ清国ニ於ル、其通
聘今尚初ノ如シ、即一國ニ帝ヲ奉シ、喻
ハ、一婦兩夫ニ相見ユルニ均シ、夫如
是則ハ各國ノ瞻スル所、將夕何レヲ正
主トシ、何レヲ姦夫トセシ、其兩國ニ跪
屬スルノ新古、内政與聞ノ深淺ニ就テ
論之則ハ、其正其姦、亦自ラ判明スト、夫

氏、而モ外政ニ於ル、談藩尚ホ主權ヲ有
ス、故ニ佛采蘭、如キ、則ク獨立國ヲ以
テ之ヲ推認シ、對峙ノ條約ヲ保ツ、蓋亦
前ノ所見ニ依ル所ナラン乎、客年采公
使ノ我ニ質シテ曰ク、我固琉球藩ト訂
約アリ、從今貴邦其條款ヲ保任スルノ
責ヲ受リルヤ否ト、答テ曰、我保任ノ責
ニ咎ス、固リ其所也ト、夫如是乎、於我ハ
談藩内外ノ政事ヲ管制スルヲ以テ、主
國ノ義務ヲ明表スル所也、蓋シ一婦ノ

整念其我ニ在ルカ、彼ニ在ルカノ如キ
ハ、則チ其婦ノ歸向スル所ニ任スヘキ
ノミ、然リ而シテ其歸向ヲ要セサルヘ
カラス、其之ヲ要セント欲セハ、綏撫愛
護、以テ彼ヲ断テ、再ヒ顧ミサラシムル
ニ如カス、竊聞近今、朝廷臺蕃征御ノ
舉アリト、此舉也、專ラ主国ノ義務ニ係
ル、即一婦一夫ノ歸向ヲ定メ、以テ各
国ヲシテ我掌裡ノモノナルヲ明識セシ
ムルノ秋ナリ、主国即主国ノ義務アリ、

属藩豈属藩ノ義務ナカラシヤ、宜ク下
手以テ之ヲ確整スヘシ、或曰、該藩ノ如
キ置テ不問モ可也ト、惟フ、今之ヲ問
フ、即カソ勞セオレル也、其カソ勞セオ
ルモノハ、獨リ時ト機トヲ得テ以テ所之
ス、清国ノ問難ヲ来カシ、問難素ヨリ不
足怨也、而シテ議論ヲ先ニシ、所置ヲ後
ニス、果シテ緯縵ノ患ヒアリ、外緯縵既
ニ生シ、内父皇母清ノ情アリ、苟モ威嚴

以テ赫制セスンハ、寧口恩言以テ化威
セカレ一カラス、威嚴固リ道ニ非ラス、
恩言断シテ化を期ナカラス、今也此機ニ
投シ、以テ其歸向ヲ定メシムル、唯易々
耳、然リ而シテ清田之ヲ論スルモ、亦徒
ニ其迹ヲ誣レノ類ニ過カルノミ、蓋シ
一婦アリ、其姦夫ノ姦ヲ知り、舎テ以テ
正主ニ附ス、姦夫豈控挑スルノ理アラ
シヤ、况ヤ正姦ノ情義明著ナルモノニ
於テヤ、因テ其下等ノ序次ヲ掲クル

左ノ如シ、

- 一 臺蕃征罪ノ議定マラハ、一勅使ヲ詠
藩ニ下シ、主田ノ義務ヲ以テ、蕃夷ヲ
討尽スルノ旨ヲ示ス一キ事
- 一 前ニ蕃夷ノ剝殺ニ遭逢セシ、琉人ノ
屬類ニ厚ク祭祀料ヲ給ハル一キ事
- 一 牡丹社ノ蕃夷數口ヲ斬首シ、之ヲ詠
藩ニ醢送シ、以テ靈ヲ慰ス一キ事
- 一 右ノ答礼トシ、藩王自ラ祭朝ス一
キ旨促カス一キ事

一藩王出京中、該藩之護衛トシテ、一軍艦若クハ、一火輪船ヲ那霸港ニ備フ
一キ事

一藩王參 朝セハ、清國ノ聘礼ヲ斷テ、福州ノ館屋ヲ撤シ、人民ヲ悉ク帰頓
セシム一キ旨、仰出サレ一キ事

一該藩之儀ハ、更ニ内務省ノ所轄ニ附シ、藩政改革スヘキ旨、仰出サレ一キ事

一藩備ノ為、火輪船一隻、該藩ヘ下給

ハル一キ事

一藩王ノ名稱ハ是迄ノ通りト云レ、攝政三司官等ノ稱呼ヲ廢シ、正權參事
四級ヲ置キ、内藩ノ制規ヲ定ム一キ事

一親方親雲上里之子、疏登之等ノ稱呼ヲ廢シ、内地ノ制度ニ準スヘキ事
一内外務省中、必當ノ官負兩名ヲ正權參事ニ任シ、屬己下モ亦兩三名ヲ加
一該藩在勤申付一キ事

一衣冠服制等ハ追テ可被相違旨仰出
カレ是迄通り差置カルヘキ事

右ハ沿革ノ大要ニシテ其施設ノ緩急
ハ只機變ニ応スル有ノミ敢テ進止ヲ
採ル

七年三月

森山茂敬白